

資料室便り

交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）

『場所のブランド論

——プレイス・ブランディングのプロセスと実践手法』

若林宏保，徳山美津恵，長尾雅信，宮崎暢，佐藤真木著／中央経済社発行／2023年4月／A5判／208ページ／3,080円（税込）

本書は、場所の視点からブランディングを行うプレイス・ブランディングのプロセスや手法をまとめたものである。場所とは、人々によって共有化された意味の空間であり、①立地、②舞台、③センス・オブ・プレイス（場所の感覚）という3つの要素が重なりつくられる。そして、経済的・精神的価値の創出を目標として、場所の意味を共につくる活動をプレイス・ブランディングという。このプレイス・ブランディングのプロセスは、①場所の単位の設定、②場所の意味の探索、③場所の意味の方向づけ、④場所の意味の具現化という4つのステージからなる。また、リアルな世界とそれを再現したメタバースを、多様なアクターが相互かつ頻繁に行き来することで、場所の意味性の強化や新たな意味づけが行われ、センス・オブ・プレイスが豊かになると考えられる。古森□

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『日本万国博覧会公式記録』

日本万国博覧会記念協会／1972年3月／全3巻

本書は、1970年3月にアジアで初めて開催された日本万国博覧会（大阪万博）の公式記録である。この記録には、開催の意義や各国パビリオンの様

子とともに、観客や設営に必要な貨物輸送についても記されている。観客の鉄軌道輸送については、準備の段階でさまざまな懇談会・委員会を設立して輸送計画を立て、特急停車駅変更や会場に直結する路線整備などを進めた。航空輸送については、外国人観客誘致のために団体客の運賃割引を実施した。その結果、予想を大幅に上回る国内外の観客を迎え入れることができた。貨物輸送については、行政機関や民間企業が連携して円滑な輸送が行えるよう優遇措置を設けたという。資料室では、大阪万博以外に東京2020オリンピック輸送に関する記録なども保管している。田邊□

■新着情報（2023年6月分）

- 1 東京駅・駅前広場のデザイン——丸の内広場と行幸通り 篠原修，内藤廣編著 彰国社 2023年5月
- 2 EU共通航空政策の軌跡と変容——域内市場統合から域外進出へ 河越真帆 吉田書店 2023年3月
- 3 ピークレス都市東京 中村文彦，三浦詩乃，ほか 近代科学社 Digital 2023年3月

→続きの情報はホームページで

*上記以外の新着図書や新着雑誌につきましては、ホームページをご覧ください。キーワードによる蔵書検索も可能です。併せて月別の「新着図書目録」も掲載しています。



■資料室からのご案内

資料室では、本号の特集で取り上げました「大阪」に関連する交通書を所蔵しています。たとえば、『大阪鉄道局史』（1950年）、『大阪市交通局五十年史』（1954年）、『大阪電気軌道株式会社三十年史』（1940年）などがあります。すべて手に取ってご覧いただけます。

担当：土方規義 古森崇史 原祥太 田邊由佳